

編集後記

病院紀要第52巻（平成25年度）をお届けします。本紀要は市民病院群の学術活動の記録であり、我々自身の1年を振り返り、今後の計画に生かすためにタイムリーな刊行が大切なので、今回も年度内に発刊することができてほっとしています。投稿いただいた医師、職員の方々、編集会議の開催や各病院の業績集計など、膨大な編集業務を粛々と行っていただいた事務局に厚く御礼を申し上げます。

今回の紀要の巻頭は、西神戸医療センター皮膚科部長の堀川先生による蕁麻疹に関する総説です。私事で恐縮ですが、私自身、サバやサンマの生食で蕁麻疹が出るので、思わず精読させていただきました。蕁麻疹は我々が診療する患者さんで頻繁に遭遇する疾患ですが、まだわからないことも多く、最新の知識整理に大変役立つ論文です。原著は中央市民病院情報企画課の加藤主幹によるDPCデータベース構築への取り組みに関する論文です。我々医師は医療を医学的観点だけから見がちですが、医療はそれを支える経済的基盤がなければ成立しません。本論文で医療をDPCの観点から勉強し、医学に生かすヒントを得てください。

CPC報告、学術振興事業の業績報告も例年通り掲載されていますが、従来から継続されている笠原がん治療研究事業に加えて、今年度から松本アレルギー疾患研究事業の報告も始まりました。ご寄付を頂いた熱い思いに応えて、今後も有益な研究がつづけられることを期待します。

我々、医療に携わる者にとって、実際の診療行為と同じくらいに学術活動は重要です。医学は実学であり、多くの実的な知識が堆積して新たな進歩が生み出されます。我が市民病院群のように膨大な患者さんの診療を行っている組織は、積極的に情報を発信して医学の進歩、ひいては患者さんのより良い治療に貢献する責務があるといえるでしょう。臨床経験を学会発表や論文にまとめる作業は、仮に自身が最善と考えて行っている医療でも何らかの問題点や改善点があることを教えてくれます。医師はもとより、コメディカル、事務職など、様々な職種の医療従事者の皆様の投稿をお待ちしております。

神戸市立医療センター中央市民病院

副院長 内藤 泰